

茨 木 市

学校のICT整備と教育の情報化

はじめに

茨木市では市立小学校32校、中学校15校に約2万4千人の児童・生徒が学び、約1千2百名の教職員が勤務しています。この5年間あまり、施政方針のもと、通信回線やコンピュータ機器等のハードウェア整備と、教育用イントラや教材配信システムなどソフトウェア整備に努め、児童・生徒の情報活用能力の育成をめざしてきました。

また、平成18年度に実施された大阪府学力等実態調査から、本市児童・生徒について独自に分析し、学力向上3カ年計画“茨木っ子プラン22”を策定し、それに基づくさまざまな学力向上の取組を展開しているところです。このプランのひとつとして、学習におけるICT活用をいっそう普及させ、学力向上をめざす教員、児童・生徒の支援を推進しています。

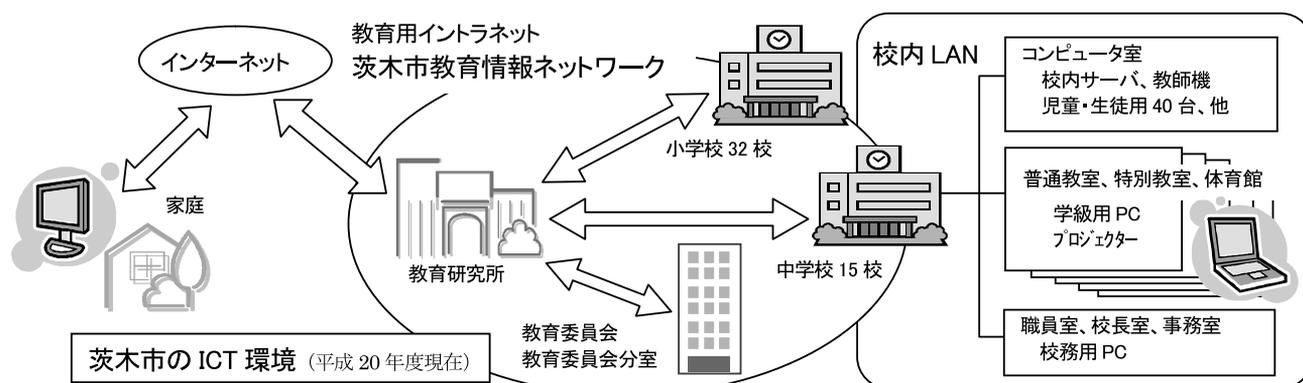
ICT環境整備をふりかえって

茨木市が学校の教育用コンピュータの整備を最初に行ったのは昭和63年度です。普通教室をコンピュータ教室に改装し、15台のコンピュータ（生徒3人に1台）を設置しました。当時の生徒にとってはめ

ずらしいもので、教員手作りの学習教材コンテンツを用い、熱心に学習しました。

平成10年度には、教育に特化したイントラネット「茨木市教育情報ネットワーク」を構築し、電話回線で学校からインターネット接続も可能となりました。表示に長時間待たされることもありましたが、「世界とつながる」ことに教員も児童・生徒もドキドキしながらディスプレイを見ていました。

平成14年度にはICT整備の中期計画を策定し、それに基づいて平成15年度に光ファイバー化による高速回線、平成16年度には中学校のコンピュータ教室更新によって40台のパソコン設置（生徒1人1台）と普通教室や特別教室の校内LAN整備、続く平成17年度には小学校に同様の整備が完了しました。さらに平成18年度には高速化と大容量化、セキュリティ強化などに対応し、平成19年度には各学級に1台のパソコンと、その3分の1台のプロジェクターを整備し、普通教室や特別教室でもICTを活用した授業が展開できるようになりました。平成20年度現在、小・中学校全体で3000台を超えるコンピュータがネットワーク接続され、いつでもどこでもインターネットにつながる環境が整いました。



## 教育用イントラネット

ネットワーク整備当初から、本市の教育に特化した教育用イントラネットの構築にも取り組んできました。学校のニーズに応じて、教育関連情報の提供、資料検索データベース、教育関連サイトへのリンク集など、徐々に開発し積み重ねてきました。今では教育用デジタルコンテンツの集積、掲示板や電子メール、テレビ会議システム、初任者教員向けのポータルサイトなどが利用できます。平成18年度秋より稼働を始めた「ICT授業実践データベース」も独自開発しており、ICTを用いて授業を行った教員が、自作のデジタルファイルやインターネット上のアドレスなど授業に関連するデジタル情報を登録し、イントラネット上で共有するものです。登録する教員には自身の実践記録となり、他の教員にとっては同じ茨木の教員が行っている実践事例を参照することで、効率的、効果的なICT活用授業の普及を図っています。平成19年度末には登録件数が100件を超え、データベースらしくなってきました。

ハード面、ソフト面の整備が進むにつれ、授業でICTを活用する教員も増えてきました。以前は故障対応の連絡が多かった学校からの電話も、授業での活用方法の相談や、授業実践の報告が増え、そこから子どもたちの生き生きしたようすがうかがえます。

## 家庭学習へのアプローチ

平成19年度の調査で、本市小学6年生の8割、中学2年生の9割が、家庭のパソコンや自分の携帯電話でインターネットにアクセスしていることがわかりました。学校では教育用イントラネットや校内LANも、児童・生徒のネットワーク・コミュニケーションの練習の場として位置づけ、“顔の見える環境”でメールや掲示板、専用チャットページを使って体験的に学び、情報モラルの指導に役立てています。

児童・生徒の学力向上につながるICT活用として、平成20年度9月よりe-learning学習支援システ

ム“いばらきっ子スタディ”を稼働させました。これはパソコンで国語・算数（数学）・理科・社会（中学校は英語も）の各単元の教材を個々の理解度に応じて学習するもので、基本問題がクリアできない子どもには解説画面や易しい問題を表示し、クリアできた子どもには発展的な問題を出題します。児童・生徒は自分のペースで自学自習し、教員は直接支援の必要な子どもに寄り添うことができます。授業で使うほか、放課後学習会、別室登校や不登校の児童・生徒にも利用でき、幅広い活用が始まっています。この12月にはインターネット経由で児童・生徒の家庭からも学習できるよう準備を進めているところです。



## 校務の情報化に向けて

今後の課題のひとつは校務の情報化です。平成19年度から教育委員会の4課から成るプロジェクトを立ち上げ、教育委員会～学校間のさまざまな通信・伝達、校内の情報共有など、校務全般にわたってICT活用を推進し、「効率化によって得られる時間を子どもたちと向き合う時間に返す」を目標として校務の情報化をめざしています。

また情報セキュリティについては、教員用コンピュータひとり1台時代を間近にひかえ、情報の入出力制限や暗号化システムを導入し、運用開始に向けて調整しているところです。システム整備と並行して、教職員各自が個人情報を扱うプロとしての意識も高めながら、校務の情報化を進めています。

児童・生徒がICTを臆せず使いこなし、自学自習でき、教員はICTを活用したわかる授業を展開し、校務の効率化でゆとりを持って日々の教育に邁進する、そのような時代にむけて今後も取組を続けていきたいと考えています。